Japanese Council of Science Museums Newsletter Vol.31. No.5

全科協ニュース

URL http://jcsm. kahaku. go. jp

全国科学博物館協議会　東京都台東区上野公園　国立科学博物館　〒110-8718　Tel.5814-9857・9858　Fax.5814-9898　平成13年9月1日発行（通巻第180号）

特集　博物館の集客努力

国立民族学博物館の試み

国立民族学博物館　民族社会研究部　教授　小山　修三

1．博物館の観客離れ

いま博物館を訪れる人が全国的に減少していることは統計から明らかである。丹青研究所がおこなった全国1,155の博物館の入館者数（1995～97年）についてのアンケート調査によると、観客数は毎年減少しており（図1）、減少の傾向はその後も続いているはずである。ところが、博物館数そのものは増加している。これは一種の同業種の競合なのであろうか（図2）。しかし、博物館を訪れる人口自体が減少しているのでこれではうまく説明できない。

なぜそうなのか、それは博物館を取り巻く環境がいま大きく変わりつつあるからである。これまでの貴重品・珍品をならべて観客にみせるという方法は、いわゆるファインアート・ギャラリー系のものを除けば、もう人はあつまらない。自然科学・歴史、民族などの博物館は、観客が触り、動かし、楽しむという参加型の時代に入っている。ヨーロッパやアメリカの博物館はほぼそうなっている。

図1　全国1155館の入館者数の推移
（株）丹青研究所『「最近3カ年の入館者数」に関するアンケート調査結果報告』より

図2　全国の博物館数
（株）丹青研究所調べ

2．展示の工夫―それでも減少する観客

民博は開館の時から（例外を除けば）触れることのできる展示をおこなってきた。また展示の説明は最小にとどめ、興味のある人はビデオテークをみるという観客の自主性を重んじる方針をうちだしそれが、評判となり多くの観客を集めた。

その後も「Dr. みんぱく（一見ふしぎな世界の民具をならべ、それをキカイに近づけると中にうめこんだチップ情報が画面にあらわれる）」、「電子ガイド（観客がパソコンをもち運び、興味をおぼえた展示品の前で操作すると、その意味や利用風景が画面で表示される）」などの装置の開発につとめてきた。また、特別展や正月・夏休みのイベントにもさまざまな工夫を凝らしてきた。しかし、それでも観客減少の動きに歯止めをかけることができていない。

観客はどこへいったのか。テーマパークや地方博などに客を奪われているようだ。世界市場の動向を敏感にとらえ投資を惜しまないアミューズメントパークに対抗できないことがわかる。

しかし、博物館とアミューズメントパークは同じものなのか、観客数の増加ばかりを追っていては、差が縮まらな

いだけでなく、博物館の存在の意味さえみうしなってしまいそうだ。民族学の意義や、おもしろさを伝えるにはどうすればよいのだろうか。

民博では社会教育という義務を果たすために、毎月、民博ゼミナールや友の会の例会の講義をやり、ほかにも公開シンポジウム、特別公演をおこなっている。しかし、講堂がいっぱいでも収容人員が最大450人なので、数としては大したものではない。しかも、人が来るのを待つばかり。そのため、常連客に偏重してしまう。交通が不便なので、時間も金もかかるという事情もある。

3．打開策はないのか？

大阪に「民博を支援する会」という若い実業家やマスコミ関係者の集まる会がある。ボランティアというか勝手連というか、時々集まっては一諸に飲みながら雑談をする会である。「民博に人をどう集めるか」という話題がでた。

民博は遠くて、時間と金がかかる―「町のまんなかにもってくればよろし」

講義に人があつまらない―「難しすぎる、話がかたまってしまっている。複数の人で広い視野で語る。アクションを入れる。軟らかく、わかりやすく」

象牙の塔にこもってマジメな先生が多いから―「いや、わかってもらえるとおもう、危機感を持っている人もけっこういる。それに大阪なんだから、笑いがなくては」。

「関西で全国区なのは、ヨシモト、タカラヅカ、それにミンパク」吉本興業のTさんが言った。

しかしヨシモトじゃ抵抗がある―「お笑いが商標のヨンモトですが、最近は市町村のイベント、福祉講座なども手がけている。タレントには学問志向の人も多い」

4．ヘップ民博講座の実現

会場については大阪駅にちかい若者向けファッションビルHEPファイブの最上階にあるホールがある。ここでは若手の音楽家、劇場、落語など意欲的な試みを支援している。話してみるとおもしろいというので、とりあえず一年間、二ケ月に一回の計画でやってみましょうということになった。

トピックと講師は民博でいくつかの案をセットでつくる。ヨシモトがそれに味をつけ、脚本を作り、宣伝もやる。「ぴあ」「エルマガ」など若者向けの情報誌にも積極的に声をかけ、ラジオやテレビで受けるところがあればそれもいく。千里文化財団がコーディネイト役。

全体を通しての総会司会は、ハイヒール・リンゴさんがきまった。「ペイはボランティアなみですが」。知性派タレントで、その博識ぶりにはこちらがたじたじとなることが何度もあった。さらに人気のあるゲストが加わるという構成ができた。

5．初年度のプログラム

初年度のプログラムは以下の通り。

1.おしゃれな縄文人

1999年3月30日（火）19：00～

小山修三、永井友子（ファッション評論家）、Ann（ファッションモデル）、大阪モード学園生徒4名、ハイヒール・リンゴ。

＊縄文人の衣装を作りファッションショーをやる。

2.文化麺類学入門―「うどん」か「そば」か、どっちがエライ―

1999年5月8日（土）15：00～

石毛直道、小山修三、程一彦（料理家）、ハイヒール・リンゴ

＊世界の麺、麺料理をつくって、全員たべる。

3.風呂とエクスタシー

1999年7月14日（水）19：00～

吉田集而、小山修三、Ann、ハイヒール・リンゴ

＊入浴剤のおみやげつき

4.キムチ開封

1999年9月28日（火）19：00～

朝倉敏夫、石毛直道、Ann、ハイヒール・リンゴ

＊キムチのおみやげつき、開演中は食べないこと！

5.語りつぐ人―民話でさぐる文字のない世界―

1999年12月15日（水）19：00～

江口一久、Ann、河辺知美、ハイヒール・リンゴ

創作麺料理を観客と楽しむ

＊民族衣装でアフリカ民話を語る、ジャンベ伴奏つき

6.音で楽しむ民族学―感じるラテンアメリカ―

2000年2月18日（金）19：00～

山本紀夫、中野振一郎、小山修三、ハイヒール・リンゴ

＊チェンバロ奏者、南米民族楽器演奏、観客も参加

6．反響

この企画は成功をおさめた。ホールは最大150人という小さなものだったが、毎回ほぼ満席になった。ことにマスコミの反響は予想以上に大きかった。全国欄にも書かれ、北海道から九州まで地方主要紙に配信された。そのいくつか。日本経済新聞（1999年3月15日夕刊）、国立民族学博物館梅田で出張講座。朝日新聞（1999年3月17日夕刊）「学問」で笑わしたる　民博・吉本、タイアップ講座。産経新聞（1999年4月17日夕刊）民博　吉本　ジョイント講座スタート　ライブ感覚　難しい学問をわかりやすく。北海道新聞（1999年8月11日夕刊）国立民族博物館　お堅い学問まーるく　吉本と合同講義が好評　等々。

この試み一つで観客数がめだってのびるということはなかった。しかし、民博は市民にひらかれ、その要求に応じようとする姿勢はわかっていただけたようだ。「楽しく学ぶ」、それをわかってもらうことが博物館に人を集めるはじめの一歩だと思う。

美術館のブランド戦略

箱根ガラスの森美術館　館長　**岩田　正崔**

はじめに

「箱根ガラスの森」は1996年8月の開館以来、満5年で350万人以上のお客様をお迎えしている。お客様の層は女性が圧倒的に多く50歳前後と20歳前後そしてリピーターが多いのが特徴だが、当初からこうしたお客様の性格や動向を予想できていたわけではない。この結果こそ、逆に、弊館の運営にとって重要な指針となっていることを、先ず正直に申し上げておきたい。

＜美の女神の館（やかた）＞

白煙をあげる大涌谷を借景に緑の木立に囲まれた仙石原27,000平方メートルの広大な庭園内に、15―20世紀の貴重なヴェネチアングラスを展示した「ヴェネチアングラス美術館」という「美の女神の館」を心のご馳走として、女性のために創ろうというのが、外食産業として独自の食文化を創りあげた創立者鵜飼貞男の夢であった。この夢を運営面で実現させるのが、私の夢であったといってよい。

では、「美の女神」ヴェネチアングラスとは、何か。

ガラスはまさしく古代から宝石そのもの、黄金や天然宝石よりも珍重された王者の占有物であり、その神秘的な美しい輝きは人々の夢や願望をかきたて、特に女性にとっては垂涎の的であった。

その中でひときわ光彩を放ったのがヴェネチアングラスである。

繊細、優雅にして清楚なその姿は、はかなさの中にも高貴さをあわせ持つ独得の雰囲気を醸し出し、まるで、ヨーロッパ中世貴婦人のもつ美しさそのものである。この妖しい美しさゆえに、ヴェネチアの職人たちが魂をも奪われ、生命をかけて創ったもの、これこそ「美の女神」の魅力に違いない。

箱根ガラスの森美術館全景

こうしたイメージの「箱根ガラスの森」がどのような運営を行っているかを次にのべたい。

1.＜本物志向に応える＞

なによりも、先ず、弊館で働くすべての館員が、夢と誇りを共有することである。

一人一人の胸に、教え、刻み込んだ姿とは、ヴェネチアン・グラスの美術工芸品500点が収蔵されており、100点余が常時展示され、いずれもヨーロッパ貴族たちを魅了した

最高級の作品だけを選りすぐっていることである。その収蔵品はイタリアルネサンス時代の最高傑作といわれるエナメル彩のゴブレットや水晶石のような「クリッスタッロ」、ガラスの貴婦人と呼ばれた秘伝中の秘伝「レース・グラス」、繊細な「ダイヤモンド・ポイント彫り」、天然の宝石の模様を表現した「マーブル・グラス」などである。

そして、世界で最も充実したコレクションで知られるヴェネチア市立ムラノガラス美術館と姉妹関係にあり、弊館がその規模と内容において、比肩しうる世界最高水準を目指しているという誇りである。

館員たちは、自信をもって、お客様の本物志向に応えるとともに、その心をどう捉えるかが課題といえる。そのためには、この作品たちが一層輝けるような理想的な雰囲気を創り、その中で観ていただく工夫を、常駐する解説学芸員や照明、展示に凝らさなければならない。楽しく興味をひきながら、知的欲求を満たしていく、つまり教育的でありながらもお客さまの共感や満足感が得られるよう、常に眼配りをする必要がある。

点彩花文蓋付ゴブレット1500年頃・ヴェネチア

2.＜夢と幸せの演出＞

お客様に対して、特に大切にしているものは、夢の世界へ誘い幸せ感を味わってもらうことである。

従来の美術館の「美術品をみせる」「判る人だけ観ればよい」という作品本位のスタンスから脱却し、「観て楽しんでいただく」「夢や幸せをいだいていただく」というお客様本位の立場にたって、徹底したサービスを実現する。そのため、ヴェネチアン・グラスの作品を主役として、建物や庭園、門、噴水、椅子、テント、石畳、そして勤務する館員も含めた美術館全体を、芸術作品というコンセプトで、お客様をお迎えし、より楽しく鑑賞していただけるように心掛けている。訪れたお客様が、いつのまにか中世の貴族や貴婦人のような気分になり、その館の主になったつもりでの生活シーンを堪能してくれることが、願いであった。

そして、お客様の購買欲求や食の欲求を満たすための、サービス空間も用意している。世界各国のガラス製品を集めたアート感覚の小物が買える「ミュージアムショップ」、オープンテラスのおしゃれな「カフェテラッツァ」、水車のまわるジャムのお店「アチェロ」など。どれもがこだわりを持ったものとなるように留意している。

アンケートによれば、人から頼まれなくとも他の人に話したくなる、誘いたくなるというお客様が多い。これがリピーターの多い理由である。これこそ、念願であったといってよい。

3.＜徹底した心遣い＞

人の温もりの感じられるサービスを徹底することを、運営のモットーとしている。

館員はもちろんガードマン、アルバイトも皆同じ意識を共有し、きびきびした爽やかな態度で、笑顔をもってお客様をお迎えする。

館内のご案内、個人のお客様への応対、グループのお客様へのガイド、美しい庭園の管理、自然の鳥の餌つけ、駐車場の手配、常駐する解説学芸員、窓から見える景色、雨傘の用意、休みたいと思うところにある椅子、写真撮影のお手伝いなど全てにわたる徹底した心づくしは、作品を気持ち良く鑑賞するのに共感を得る必要条件である。

ショップも、中世ヨーロッパの街並みにガラスの専門店が軒を連ねているイメージになっていて、いかにもヴェネチアに旅している気分で買い物が楽しめる。カフェでは、自然の景色を楽しみながら、吟味された素材、味に舌鼓を

カンツォーネの生演奏

打ち、凝った器に感じ入り、その上イタリア人歌手による生演奏がある。それぞれの楽しみ方をしている光景は見た目にもなんとも喜ばしいし、また爽やかないい空気が漂っている。

お客様が館を出て行かれるときに、私達にも「ありがとう」と言ってくれますとガードマンが感激している姿には館員全員が励まされる。

4.＜一貫性ということ＞

お客様の心に残る訴求をするためには、イメージの一貫性を保つことが重要である。

先述した通り、弊館は中世ヨーロッパの貴族の館での貴族の生活感をイメージして創られている。ここへ訪れたお客様の気分はすでに貴婦人となっている。であるからショップにおいても、たとえ地域の物産でよく売れているものがあってもイメージに合わないものは、店頭には置いてはならない。館内のイメージの統一また宣伝や広報においても「ゆらりと心を遊ばせて、遙かな時代のヴェネチアへ」というコピーとヴィジュアルを大切に繰り返し展開している。

5.＜地域性の尊重＞

美術館の盛衰は地域社会の盛衰に従うといっても過言ではない。

箱根は、四季折々変化する美しい自然があり、年間2,000万人のお客様を誘致している世界的リゾートである。そこに生活する人たちといかに協力、協調していくか、また逆に協力していただけるかが大きな鍵となる。住民の方々はもちろん旅館、ホテル、保養所、美術館施設、飲食関係の店舗などで働く人たち、地元の運転手さんに魅力ある施設として愛され、自発的にお客様にご紹介していただけるような人間関係をつくる努力を惜しんではならない。そして双方が、気持ちよく安心してご案内できるようにし、地域の活性化、発展に役立ち活力ある「箱根」というブランドをいつまでも大切にしていきたい。それが、共に発展できるベストの道だと信じている。

まとめ

美術館全体が醸し出す夢のある雰囲気、統一されたイメージ、いつも新しい何かをやっているという革新的なこと、地域との密着、おもてなしの心などを念頭におきながら、いかにお客様の感動を創出できるか、そしてお客様自身が、私の美術館と感じてくださり、どれだけ多くの家族や友人にご紹介くださるかが成否を決める要であると認識している。

願わくば、箱根と言えば、「箱根ガラスの森」を連想し、ガラスといえば「箱根ガラスの森」がすぐ浮かぶファーストマインドミュージアムであるべく努力したい。これこそ究極の美術館ブランド戦略であり集客力と考えている。

小さな水車小屋「アチェロ」

美術
はく製
〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工／販売／リース

有限会社 東洋近代美術研究所
製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1
直通☎047-337-5678
☎047-337-5883
FAX 047-338-1978
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

TOKYO SCIENCE CO., LTD.
ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本

since 1974
地学標本（化石・鉱物・岩石）
古生物関係模型（レプリカ）
大英博物館／恐竜復元模型
●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)
株式会社 東京サイエンス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
http://www.tokyo-science.co.jp E-mail:info@tokyo-science.co.jp

琵琶湖博物館の4周年記念事業

滋賀県立琵琶湖博物館　専門学芸員　**高橋　啓一**

琵琶湖博物館は、今年10月20日で一般公開をはじめてから5年を迎える。今年6月までの入館者数は、約328万人で、昨年度1年間では約50万人の入館者があった。開館当初に比べれば入館者は半減したが、これは当然の成り行きであって、下降曲線は水平になってきたことから、むしろまずまずの線で軟着陸したと見ている。

どのようにして、たくさんの来館者を迎え、自分たちの主張を聞いてもらうかは、博物館の大きな課題である。しかし、これが逆転して多くの来館者をどのようにして呼ぶかということだけが先行してしまうと、その時点からその博物館の将来は見えてくるといってもよい。

私たちは、準備室時代によく「そのような展示でどれくらいの来館者が見込まれるのか」とか「ほんとうに予想しているような来館者がくるのか」などの質問を幾度となく、会議の場で問いかけられた。このようなとき、どうやったら多くの人がはいるのかということを考えるよりも、面白いことをやれば人は来るのだという信念をもつことが大切であると建設準備委員の一人から教えてもらった。ここでいう面白いとは、ディズニーランドなどのアミューズメントとは別のことだというのは、いうまでもないことである。要は、来館者を増加させる対策に頭をひねる時間があったら、面白い企画を考えることに専念することが、結果的に来館者の増加をもたらすということであろうか。

したがって、本来どのようにして来館者を集めるかではなく、来館者が来たくなるような博物館の活動とは何かを語るべきなのであろうが、ここでは、昨年度おこなった活動のなかからアトリウムを活用した4周年記念事業を紹介する。

この企画は、開館4周年という機会に、これまで博物館に足を運ぶことのなかった人たちが博物館に集い、深まった秋の気配の中でゆったりとくつろいでいただくことで、琵琶湖博物館が引き続き新たな出会いと交流の場になることをめざした企画であった。題名は、「開館4周年記念行事『里山から湖と人間を考える』」とし、ミニコンサートと映画上映会、対談などから構成した。ここでも、博物館のテーマである「湖と人間」をわすれることのないように心がけた。

内容は、以下のとおりである。

1)　琵琶湖ホール音楽アンサンブルコンサート

日　時：2000年10月21日（土）

第1回　13：30～14：00、第2回　15：00～15：30

会　場：琵琶湖博物館アトリウム

指　揮　清水史広、ピアノ　平川寿乃

おもな曲目　村祭り、小さい秋みつけた、
もののけ姫など

2)　関西フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるミニコンサート

日時：2000年10月22日（日）
13：00～14：00

会場：琵琶湖博物館アトリウム

沼田陽一（フルート）、徳岡裕紀（第1バイオリン）、澤田久美（第2バイオリン）、ステファン・ポポフ（ビオラ）、分藤美紀子（チェロ）

おもな曲目　モーツアルト/アイネ・クライネ・ナハトムジーク第1楽章
モーツアルト/フルート四重奏曲から
「ハッピバースデー」変奏曲など

3)　記録映画「今森光彦の里山物語」上映会

日　時：2000年10月28日（土）、29（日）

会　場：琵琶湖博物館ホール

第1回　10：30～、第2回　15：00～

琵琶湖ホール声楽アンサンブルの公演のようす

内　容：滋賀県の湖西地方の里山の四季とそこに暮らす生き物を克明に記録したハイビジョン映像。

4)　里山対談「里山から湖と人間を考える」

日　時：2000年10月28日（土）
13：30～15：00

会　場：琵琶湖博物館ホール

対談者：今森　光彦（写真家）
土岐小百合（「里山から考える21世紀」実行委員会代表）
川那部浩哉（琵琶湖博物館館長）

内　容：今なぜ里山が目されているのかを、里山の写真家である今森氏と「里山物語」をプロデュースした土岐氏と川那部館長が語りあった。

これらの事業は、日時をみていただければわかるように2週間に渡って行われた。まず、1週目の土日には、びわ湖ホールの声楽アンサンブルによる合唱と関西フィルハーモニーのメンバーによる演奏が行われた。

今回お願いしたびわ湖ホール声楽アンサンブルは、本格的なオペラ上演が可能なびわ湖ホール専属の声楽家集団である。また、関西フィルハーモニーも1970年に発足した関西を代表する合奏団のひとつで、両者ともに質の高い公演で、来館者を喜ばせた。

会場は、あえて博物館のホールを使用せず、来館者の通路である琵琶湖博物館のアトリウムでおこなった。この空間はもともと交流空間と位置付けられていた空間でもあり2階まで吹き抜けの広い空間である。しかも、無料空間でもあり、入館券を買わなくてもこのコンサートを聞く事ができるというメリットがあった。アトリウム突き当たりの大型ガラスをとおしての美しい琵琶湖やその背後の山々を借景にコンサートがおこなわれ、それらの景色は、公演を盛り上げるのに一役かった。

聴衆は、たまたまこのときに博物館を訪れた来館者やこのためにわざわざ来られた音楽フアンなどであったが、しばしの異空間の出現に特設の椅子に座りながら楽しんでいただいたようであった。

2週目は、滋賀県生まれで、数々の賞を獲得している写真家の今森光彦さんの記録映画「今森光彦の里山物語」の上映会と対談をおこなった。こちらは、映画の上映ということもあり、博物館のホールを使って無料でおこなった。映画は、滋賀県の湖西地方の里山の四季とそこに暮らす生き物を克明に記録したハイビジョン映像で、NHKの協力を得ておこなった。来場者が多かったことから、予定した上映時間以外にも上映をおこなった。

関西フィルハーモニーのメンバーによる公演のようす

これら企画がその後の博物館にどの程度の影響があったかは、調査していないので不明であるが、少なくとも企画の前後に新聞各社で報道されたことは、博物館の広報に一役かったことは確かである。

この他、昨年度は、琵琶湖や博物館に興味を持ってもらい、共に将来について考えていく目的で子どもたち（小・中学生）を対象に、「子ども一日学芸員」という企画をおこなったり、企画展示室などを利用した様々なギャラリー展示などをおこなった。また、ディスカバリー・ルームに来室している子どものリピーターを対象に、博物館全体を利用しながら、子ども達自身が自主的な活動が行える「お気に入り展示を伝えよう」を実施したり、同じくディスカバリー・ルームの「にんぎょうげきじょう」コーナーを利用しての、滋賀県人形劇連絡会の上演をなどもおこなったが、今回は展示や交流事業に関しては、割愛することにする。

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL http://www.tanseisha.co.jp

海外ニュース

安井亮・桜美林大学国際学部講師（博物館学）

英ヨーク国立鉄道博物館、新幹線の0系車両を常設展へ

ヨークにある国立鉄道博物館は、日本の新幹線のゼロ系車両（先頭車両）を購入し、このほど2001年7月に常設展示として登場させた。ゼロ系車両が海外で展示されることは初めてのことであるが、特筆すべきことは、同館のコレクションにとって、ゼロ系車両が最初の外国製鉄道車両でもあることだ。この事業費の368,000ポンドの多くは、日本のＪＲ西日本と日本の企業から寄付された。

豪の科学館で、道路での危険を紹介した常設展がオープン

このほどブリズベインのクィーンズランド科学館に、9歳から14歳までの子どもを対象に、オーストラリアの道路で、それも高速道路で起こるさまざまな危険を紹介した常設展がオープンした。『ロードゾーン』と題したこの常設展では、高速道路で、乗用車の運転者とその同乗者が遭遇する危険（その多くは道路を横断するカンガルーとの衝突による横転！）だけでなく、高速道路の路肩を走るサイクリスト（!!）や、カンガルーと同様に高速道路を横断する歩行者（!!）が遭遇する危険について紹介している。展示では、ダミー人形を使った自動車の衝突実験装置が設けられているほかに、一般道路の路上でのスケートボード遊びで起こる衝突事故の疑似体験、自転車を漕ぐ時にヘルメットを着帽せずに転んだ場合に起こる頭への衝撃や、飲酒運転にともなう前方への注意と判断力の低下を証明する展示装置なども設けられている。20機ある展示装置は、いずれもキャンベラにある国立科学技術博物館『クェスタコン』の協力を受けて開発された。RoadZone展。

米シカゴ科学アカデミー、放蝶園を再オープン

シカゴのシカゴ科学アカデミーの施設の一つであるペギー・ノートバート自然館で、放蝶園『Judy Istok Butterfly Haven』がリニューアルされて2001年5月にオープンした。今まで展示していた59種の在来種のチョウに、新たに142種の非在来種が加わった。南米のモルフォチョウ、中南米のフクロウチョウなどが熱帯樹や亜熱帯樹の間を飛び交っている。園内には様々なチョウのさなぎも飼育展示されており、観覧者が間近にそれらを見ることができる。学習コーナーも園内の一角に設けられており、観覧者はそこで、台風や前線に伴う風で運ばれる迷チョウの飛行ルート、生活周期、食物の探し方、求愛や天敵からの攻撃のかわし方などを詳しく知ることができる。新しいチョウの多くが二週間毎に中南米からさなぎとして空輸されている。

英ロンドン国立自然史博物館、特別展『プレディター』を開催中

ロンドンの国立自然史博物館で、2001年7月18日に特別展『プレディター（捕食者）』が始まった。7歳から12歳までの子どもを主要な対象にした同展では、自然界における捕食者がどのようにして餌食を捕らえるかが取り上げられ、展示コーナーも「（獲物を見つける）感覚」、「（捕食の）道具と武器」および「狩りの戦術」によって構成されている。観覧者が最初に見る「感覚」のコーナーでは、捕食者がどのように獲物を探しだし、そして捕食される側もどのようにして彼らの攻撃をかわすかを知ることができる。ここでは、ふだんは遊泳動作をしているホオジロザメのロボット（全長5 m）が、センサーを使って人の気配を察知し、そして一転して攻撃動作に切り替わる。また、オオミミギツネの耳のレプリカが用意されており、観覧者はそれを使って、集音力がすぐれているこの動物の聴覚についての体験学習

『プレディター』展のジャクソンカメレオン
（ロンドン国立自然史博物館 Courtesy The Natural History Museum）

ができる。「捕食の道具と武器」のコーナーでは、道具と武器として使われる捕食者の牙や爪の機能が紹介され、そして捕食される側も、ハリネズミの背中の針のように、様々な防衛用の武器も紹介されている。ジャクソンカメレオンのロボット（全長5 m）の両眼の中にはCCDカメラが仕込まれており、観覧者はモニター画面を見ながら操作をすることができる。両眼で獲物を見据え、ボタンを押すと、口から長い舌が飛び出すようになっている。「狩りの戦術」

のコーナーでは、ワニやオオカミを例にとって、捕食者が獲物を捕る戦術がわかりやすく紹介され、感覚と武器がどのように連動されて動くかわかるようになっている。ここでは、観覧者はクモの巣を模したピアノ線を触れることによって、即座にシドニージョウゴグモのロボット(全長2.5 m)が餌食への攻撃動作に移るよう仕掛けがなされている。ジャクソンカメレオンとシドニージョウゴグモ、およびホオジロザメは、同展の目玉展示になっており、いずれもココロ社(東京・羽村市)が制作したロボットだ。開期は2002年5月6日まで。Predators展。

『プレディター』展のホオジロザメ
(ロンドン国立自然史博物館 Courtesy The Natural History Museum)

『プレディター』展のシドニージョウゴグモ
(ロンドン国立自然史博物館 Courtesy The Natural History Museum)

加オンタリオ科学館、サーカスを紹介した特別展を開催中

トロントのオンタリオ科学館で、開催中の特別展『サーカス!』は、昔から子どもに人気があるサーカスで繰り広がれている世界を、科学の視点で紹介したものである。人間大砲の展示では、弾道計算などの数学や物性の法則などの物理がわかりやすく紹介され、また空中ブランコと綱わたりでは、観覧者自身が身をもって、平衡感覚や重力といった物理が体験学習できる。サーカスの歴史も紹介されているほかに、皿まわしやジャグリングなどのパフォーマンスも、会場の監視員などによって演じられている。会場では、サーカスを連想される火薬のキナ臭さ、干し草、動物の糞などの臭いも、観覧者のために用意されている。2002年4月まで。Circus!展。

米スミソニアン、特別展『脳:頭の中の世界』を開催中

ワシントンDCのスミソニアン博物館機構で始まった特別展『脳:頭の中の世界』(会場:Arts & Industries Building)では、観覧者は最新の研究成果を使って、人間の脳のしくみと働きについて詳しく知ることができる。バーチャル・リアリティー技術、ビデオ・ゲームと特殊映像や体験型の展示物を使って、脳の中が探査でき、さまざまな脳の病気や脳の障害について理解できるようになっている。観覧者はライドにのって、神経系統を模した展示空間の中を移動し、途中で、人間が見る「夢」の解明、臭いや視覚的なイメージが記憶を形成するしくみや、網膜に移った視覚イメージが脳に伝達されるしくみ等のトピックスに触れられる。同展では、精神分裂症とアルツハイマー病についても、それらの発病の原因と最新の治療方法が紹介されている。2002年1月6日までスミソニアンで開催した後、順次オレゴン科学産業博物館(ポートランド)、サイエンス・プレース(ダラス)やシカゴ科学産業博物館等で巡回する予定だ。Brain: The World Inside Your Head展。

米コラージュ子ども博物館の新館長に、市長経験者が就任

米国では、実業界から博物館界に転身する例が今までいくつもあるが、政界からの例はない。このほどコロラド州ボルダーのコラージュ子ども博物館の新館長に、かつてボルダーの市長をつとめたことがあるレズリー・ダーギン氏が就任した。ダーギン女史は、市長を一期だけ務めたあとに、当地のコロラド大学のファンドレージング部長を長く務めたキャリアをもっていることで知られている。これによって、非営利団体でもある同館は、積極的な資金調達にもとづいた館の活発な活動が、現地で大いに期待されている。政治家はともかくとして、日本の博物館でも、私学で資金調達の豊富な経験をもつプロを館長に招くことは、あながち無理ともいえない……かもしれない。

＊(やすい・りょう)　E-mail: RGYasui@obirin.ac.jp

9月 10月の特別展

岩手県立博物館

「下伊那地方の文化財とその周辺」　9月22日～11月11日

牛の博物館

第12回企画展「クローン―性と生命を考える―」
7月27日～10月8日

仙台市科学館

WOODS コーナー小企画展「パレオパラドキシアがいた頃」
7月20日～10月14日

秋田県立博物館

企画展「自然の中の○（まる）△（さんかく）□（しかく）―かたちには理由（わけ）がある―」
7月29日～11月11日

秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館

企画展「すばる望遠鏡―宇宙を探る新しい眼―」
10月1日～10月28日

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

第22回企画展「SATOYAMA―人と自然のコミュニティスペース“里山”―」　7月7日～9月24日

栃木県立博物館

社団法人霞会館と共催　特別企画展「―京都・日光・例幣使―光格天皇と幻の将軍」　9月11日～10月21日

群馬県立自然史博物館

第14回企画展「火の山―マグマのダイナミックな活動―」
10月6日～11月25日

埼玉県立自然史博物館

企画展「自然の調べ方」　7月1日～9月24日
特別展「未来に残したい大地の神秘」　10月6日～12月16日

千葉県立中央博物館

特別展「ヒマラヤ―人・自然・文化―」　6月30日～9月9日

千葉県立現代産業科学館

特別展「スペース21・宇宙への招待」　10月6日～11月25日

鴨川シーワールド

特別展「上手に子育て」―魚介類の稚魚育成―
7月8日～11月30日

逓信総合博物館

2001年NHK学園オープンスクール作品展　9月8日～30日
東海道絵巻の世界展　10月5日～28日

交通博物館

夏休み特別企画「わたしが“やえもん”のモデルです！1号きかんしゃ展」　7月20日～9月9日

たばこと塩の博物館

企画展「天保の改革と浮世絵～江戸の出版仕掛け人 Part3～」
9月15日～10月21日

国立科学博物館

特別展「日本人はるかな旅展」　9月18日～11月11日

国立科学博物館附属自然教育園

企画展「鳴く虫」　9月2日～9日

東京都高尾自然科学博物館

企画展「モミをとりまく生きもの」　7月1日～12月2日

馬の博物館

東海道宿駅制度400年記念「街道図と馬」　7月20日～9月16日
特別展「古今東西くらべ馬」　9月22日～11月11日

横浜こども科学館

企画展「それいけ！体験パネル」　9月8日～10月21日

三菱みなとみらい技術館

特別展示「暮らしの中に見る技術」　7月24日～11月25日

横須賀市自然・人文博物館

特別展示「自然からのおくりもの」　7月15日～9月30日

神奈川県立生命の星・地球博物館

「神奈川県植物誌2001」刊行記念特別展―神奈川の植物・その10余年の変化―　7月20日～9月16日

新潟県立上越科学館

「理科自由研究作品展」　9月23日～10月8日

のとじま臨海公園水族館

特別展「世界のカメ展」　7月20日～10月31日

福井県立恐竜博物館

開館1周年記念特別展「ロイヤル・ティレル―古生物学博物館の恐竜たち」　7月7日～10月31日

黒部市吉田科学館

展示会「平成13年度黒部市小・中学校児童生徒科学展」
9月15日～9月24日
特別展「山から海へ石ころの旅」　9月29日～11月11日

富山市科学文化センター

特別展「水晶の世界」　7月17日～9月16日
「富山市小中科学展」　9月23日～24日
富山県天文科学活動展「星空を追い求めて」
9月29日～10月14日

立山カルデラ砂防博物館

第7回企画展「雪　SNOW」　7月20日～9月24日

いしかわ動物園

「動物写真コンクール・作品展示」　10月6日～10月29日

岐阜県博物館

夏季特別展「あのころいた鳥～そういえばトキもおったげな～」
7月20日～9月16日
秋季特別展「七代目団十郎と国貞、国芳～芝居、錦絵、中山道～」　9月30日～11月4日

中津川鉱物博物館

第５回企画展「恐竜時代の巨大火砕流―濃飛流紋岩」
7月29日～11月11日

ディスカバリーパーク焼津

特別展「深海展～海底たんけん～」　10月４日～10月28日

静岡市立児童会館

特別企画展「ラ・ビレット展～イメージの世界～」
10月20日～11月11日

豊橋市自然史博物館

第16回特別企画展「クワガタムシはなぜ黒い？―動物たちの色ものがたり―」　7月13日～９月16日

収蔵資料紹介展「水辺の植物―恒川敏雄氏寄贈標本より―」
９月22日～10月28日

トヨタ博物館

企画展「クルマとアート　佐原輝夫の世界」
７月17日～９月16日

滋賀県立琵琶湖博物館

企画展示「鯰（なまず）―魚が結ぶ琵琶湖と田んぼ―」
７月20日～11月25日

水族企画展示「おもしろナマズ大発見―さまざまな姿と習性―」
７月20日～９月30日

兵庫県立人と自然の博物館

企画展「地震はなにがおこすのか？」　10月27日～１月20日

姫路科学館

科学の大おもちゃ展　７月28日～９月16日

児童生徒科学作品展　10月６日～11月11日

鳥取県立博物館

特別展「現代美術への招待―日本の前衛・60年代―」
10月２日～11月２日

倉敷市立自然史博物館

特別陳列「岡山県の絶滅危惧植物展―減少要因編―」
７月１日～９月30日

特別陳列「秋の鳴く虫展」　９月２日～９月16日

吉備高原ニューサイエンス館

第１回サイエンス展示・実験ショー　アイデアコンテスト受賞展　９月22日～10月31日

広島市健康づくりセンター健康科学館

企画展「好き嫌いをなくそうネ」　９月４日～12月２日

広島市交通科学館

企画展「走るメカの今むかし・オートバイ」
９月27日～11月25日

防府市青少年科学館

「防府市小中学校科学作品展」　10月２日～10月８日

特別企画展「おもしろ化学探検館」　10月20日～11月25日

屋久杉自然館

特別展「屋久杉の森　国有林の時代―近代林業の時代―」
４月25日～平成14年３月31日

—全科協情報—

○平成13年度第1回全科協総会等について

平成13年6月28日（木）から29日（金）の間、国立科学博物館において、平成13年度第1回全科協総会等を開催しました。第1回総会では、「平成12年度事業報告」「平成12年度収支決算報告」について審議され、それぞれ承認されました。（総会出席館77館、委任状提出館158館）

また、総会後は、浅見俊雄 国立スポーツ科学センター長より「スポーツ科学の今」と題し、科学がスポーツに関わってきた過程や、現在のスポーツ科学の現状などについて、具体的な事例や映像を交えながらご講演いただきました。

6月29日には、江東区青海の日本科学未来館において施設見学を実施し、約60名の参加がありました。

[北九州市自然史博物館より新設博物館名称募集について]

平成14年秋、北九州市に、新しい博物館が開館します。この博物館は、既存の自然史博物館、歴史博物館、考古博物館を一つの博物館として、一体的に運営していく施設であり、「人と自然との共生」をテーマとして、専門性を尊ぶと共に、広く親しまれる博物館を目指しています。この新博物館のテーマに沿った親しみのある博物館の名称を募集します。

応募方法：官製はがきに、名称（1枚1点）、名称を付けた簡単な理由、住所、氏名、年齢（学年）、電話番号を記入して応募。

募集期間：平成13年9月30日（当日消印有効）

応 募 先：〒805-0061北九州市八幡東区西本町3-6-1
北九州市立自然史博物館「名称募集」係

賞　　金：最優秀賞1点10万円など（詳細は電話で）

問い合せ：北九州市立自然史博物館業務課
電話093-681-1011

[(財)福武学術文化振興財団　平成13年度研究助成]

助成対象の分野：歴史学・地理学の分野における自然科学的研究

助成期間：平成14年4月より1年間

募集期間：平成13年9月29日（当日消印有効）

問い合せ：同財団事務局　電話042-356-0810
http://www.fukutake.or.jp/science/top/index.html

※世界の化石・鉱物・恐竜・化石人類・動物骨格標本及び模型の輸入専門業者

ティラノサウルス・REX

株式会社 ゼネラル サイエンス コーポレーション
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03（3583）0731代表　FAX 03（3584）6247

めざすのは「小宇宙」の実現です。
NOMURA
株式会社 乃村工藝社
本社／東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話03-3455-1171(代)
ホームページ http://www.nomurakougei.co.jp
ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBO CO.,LTD.
東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL(03)3221-1102(代)　FAX(03)3221-1185

動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

全科協ニュース編集委員会
NHK放送博物館　チーフディレクター　河野光子
滋賀県立琵琶湖博物館　企画調整課長　高橋啓一
ミュージアムパーク茨城県自然史博物館
資料課長　都賀和男
国立科学博物館　普及部　普及課長　武田良正
国立科学博物館　普及部　普及課専門職　原田紀子

全科協事務局
国立科学博物館普及部普及課　村上　剛　鈴木千絵
Tel.03-5814-9857・9858　Fax.03-5814-9898

発行日　平成13年9月1日
発　行　全国科学博物館協議会©
〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印　刷　島崎印刷株式会社